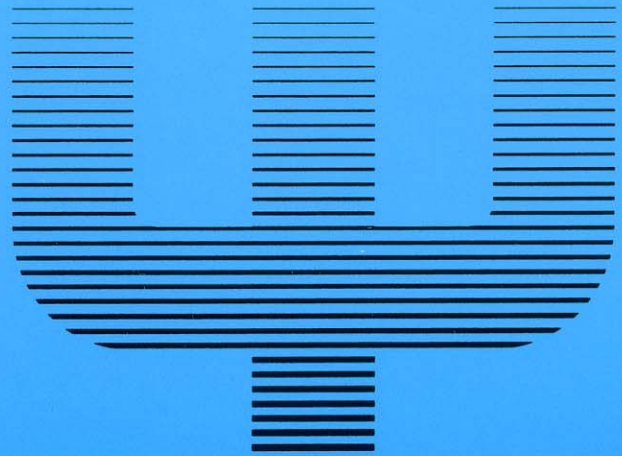


調査研究報告書 No.115
2002



公共が行う指導技法

— これからの職業訓練に係る指導技法のあり方に関する調査研究 —

雇用・能力開発機構

職業能力開発総合大学校 能力開発研究センター

公共が行う指導技法

— これからの職業訓練に係る指導技法のあり方に関する調査研究 —

雇用・能力開発機構

職業能力開発総合大学校 能力開発研究センター

は じ め に

I T革命の進展等による技術革新の進展、経済・産業構造の転換、少子・高齢化等により、職業能力開発を取り巻く環境は大きく変化してきている。これに伴い実施される職業訓練の内容や対象者も多様化してきている。また、公共の職業訓練に望まれる内容についても変化してきている。

従来より即戦力を求められているが、より市場需要に左右される訓練内容や人的な素養の訓練などが求められている。産業技術の進展により使用する機器等のハイテク化が進むが、反面基礎的な部分が欠落することも指摘されている。また、付加価値の高い製品を作り出すためには熟練した技能者の知識や経験が必要となる。したがって、公共の訓練も従来の指導方法に加えて対象や内容に併せて変化させることが必要不可欠となる。

しかし、公共という立場から今まで個々人の能力に合わせた訓練を展開することに対して現状の制度では難しい面もある。対象者はその経験や知識にばらつきがあるが受け入れ施設は個々の能力を限定することができない。そのため、訓練内容についても同様で、全般的な内容を保証することとして実施されている。これが、訓練技法に関して影響がおよぶこととなり、その範囲を限定してきた。加えて、公共の訓練は雇用政策的及び対策的な面に対応するため、研修実施主体が実施側となる。こうした問題意識を踏まえて、本委員会では、技法について実施現場へヒヤリング調査を行い、期待する新しい技法が実施されているのか探ってみた。しかし、現状は職業能力開発促進法施行規則の基準に基づく訓練で行っていた方法を展開しているところが多く、代表的な技法として監督者訓練における方法を使用している施設が多いことがわかった。これは、公共が実施する訓練として、TWIを否定もするものではなく、職業訓練を行う上で適した基盤技法であることがわかる。

訓練技法の範囲も難しい点がある。訓練技法は訓練内容に左右されるものであり、指導員の行う個別・具体的な訓練過程は訓練内容によって多様となり、ある特定の方法にくくることができない。

そのため、製品を製作することを目的に開発された訓練方法すなわち生産作業内の職務分析や作業分析を経て、訓練生に作業要素を習得させることで実際の製品への応用が図れる方法がとられ、それを指導する方法をベースとして現在の訓練技法がある。

すなわち話し方や提示方法などを含めた個別・具体的な方法ではなく、訓練の計画・準備・実施・評価などを含めた手法としての指導方法となる。そこで、本調査ではこれまでの公共の訓練にどのような指導方法があるかを捕らえなおすものである。

職業能力開発総合大学校
能力開発研究センター
所 長 池 本 喬 三

これからの職業訓練に係る指導技法のあり方に関する調査研究
公共作業部会委員

委 員（順不同）

谷口 雄治	職業能力開発総合大学校
進藤 良則	東海職業能力開発大学校
福元 基	九州職業能力開発大学校
木村 誠	静岡大学
平野 康一	平塚高等職業技術校

協 力

高度職業能力開発促進センター

事務局

白川幸太郎	能力開発研究センター
能美 英生	能力開発研究センター

目 次

第1章 研究の枠組み	1
第2章 技法についての公共職業訓練の経験	5
第1節 職業訓練の基準および職業訓練指導員業務指針による指導技法	5
第2節 神奈川県における取り組み事例	12
第3節 単位制実学一体訓練 ―八戸工科学院における事例―	19
第4節 雇用・能力開発機構のシステム・ユニット訓練方式	28
第3章 公共職業能力開発の技法上の課題と問題提起	41
補論1 キー・スキル(Key Skills)について	45
補論2 「ものづくり」における新しい教育訓練の実施事例	55
補論3 イーランニングの事例として ―高度職業能力開発促進センターの取組み―	61

執筆担当

谷口 雄治	第2章 第1節・第3節・第3章
平野 康一	第2章 第2節
木村 誠	補論1 キースキルについて
福元 基	補論2 「ものづくり」における新しい教育訓練の実施事例
事務局	第1章・第2章 第4節